

龍源寺報

令和6年（2024年）正月号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原信樹
佛母寺住職 松原覺樹	正福寺住職 松原行樹
TEL	03-3451-1853
FAX	03-3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

新年におもむ

龍源寺住職 松原信樹

入社して何も知らない、道具の名前も、機械の名前も知らない、それを一つ一つ覚えて、全く未知の世界を長い年月をかけて一人前になったと思います。そこで、自分は一人前になったと思つたその思いがありますと、そこまでの話しになってしまいます。まだ、若く技量が未熟なのに、人気があるとは勘違いしてしまい、名人を気取っている人もいます。出来るだけ経験を積んで、ある程度のところまでいったら、もう一回学び直す。すると新しいものが得られる。このことを稽古といえます。

正しい答えを求められる教育。そして求められるすぎる厳しい評価社会の中で、平静を保ち生きて行くには、どうすればよいのでしょうか。私が受けた学校での教育は、「自分自身が、一つ一つの事柄を判断し、良い成果が出るように考え工夫する」といった事を教えられ、実際に、私もそれが正しいことだと思つて、学生時代を過ごしてきました。ところが、学校を卒業し、僧侶になり約二十年、そのような事では、答えの出せないことが多くあるように思えてきました。お寺に来られた方との対話の中で、デジタルが普及し、いくら生活が便利になつても、心に不安をかかえている方が非常

に多いのに気づかされます。

妙心寺第二世・授翁宗弼じゅおうそうひつ（一二九六〜一三八〇）に、

「少水の魚にも楽しみ有り」（少水魚有楽）という言葉があります。「少水の魚」とは、いつ干上がつて死ぬか分からない浅い水たまりに住んでいる魚のことを指します。換言すれば、この無常の世に生まれ、一日一日死に近づいている存在、つまり私たち自身の状態を示しています。一方で、生きている限り現実の生活そのものにだけに心を傾けていればよく、死のことを考えることは、無駄なことであるという人も私は多く知っています。

死は生あるものに突然襲いかかり、しかも、偶然的で、わけが分からず、暗いことだから、そのようなことは考えず、「食べて飲もうじゃないか」と大抵の人は言われます。ただ、授翁宗弼の「少水の魚にも楽しみ有り」（少水魚有楽）という言葉は、死ぬことが決まっている我々の人生にも真の「楽しみ」があると言っています。「楽しみ」というのは、言うまでもなく、涅槃の楽しみであり、「実体のない苦を受けてはいいても、真実の樂が常に存在している（雖受妄苦、真樂恒存）」（『宗鏡録』卷三）と言われるような世間の苦樂を遙かに超越した楽しみのことなのでしょう。せっかく、元気に生活しているのだから、今年は今まで以上に、有意義な時間の使い方をしていきたいと思ひます。

ご寄付

金百万円 匿名殿

十万円 匿名殿

十万円 斎藤明美殿

五万円 佐久間殿

五万円 富高彰生殿

ありがとうございました

※大変貴重なご寄付をありがとうございました。
した。龍源寺の周囲が再開発される中、
龍源寺を地域の文化資源の一つとして考
え、先代から引き続き、境内整備に力を
注いで参りたいと思います。未熟者ですが、
今後とも宜しくお願い申し上げます。

松原信樹

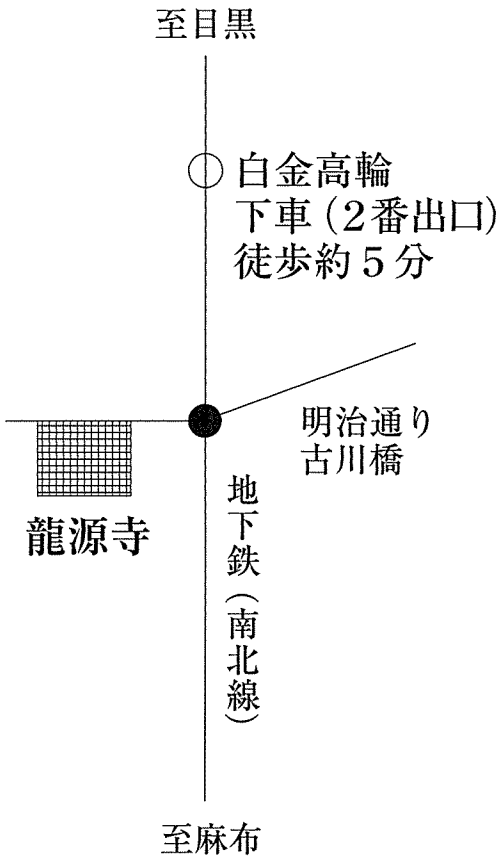
大般若会（新年の祈祷会）

一、一月六日（土曜日）午前十一時

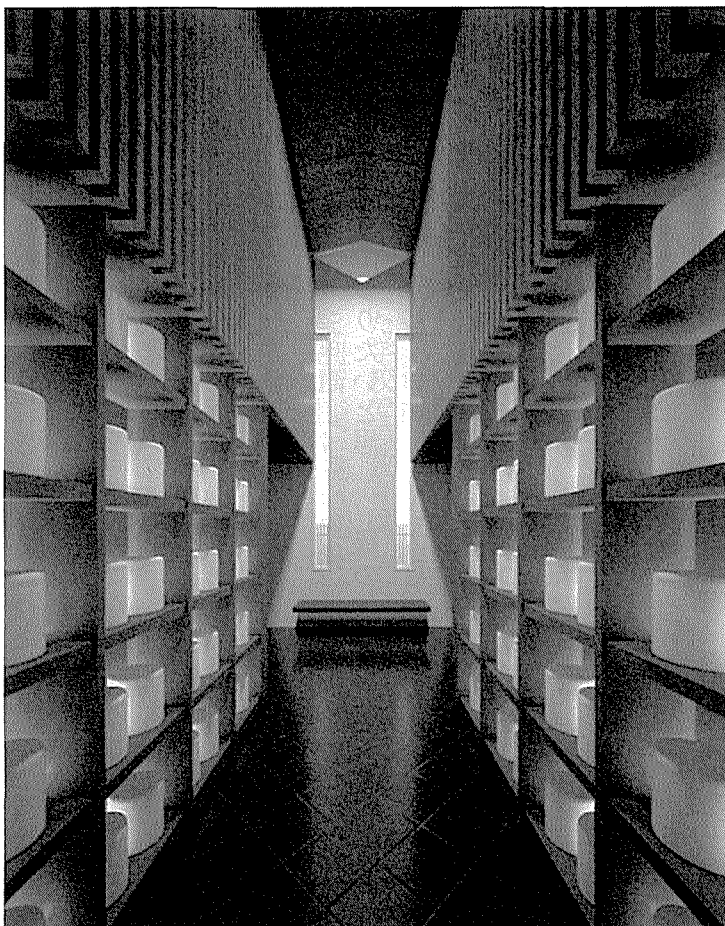
一、法話

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。



「水月堂」完成予想図



水月堂の完成予想図をお檀家様で建築家の山本哲也様をお願い致しました。部分的に変更はあるかと思いますが作成していただきました。(住職)



※水月堂とは、江戸期に龍源寺境内に
実在したお堂の名称です。



柳 緑

花 紅

明けましておめでとうござ
います。本年もよろしくお
願い申し上げます。十二月
より、建設会社に納骨堂の
工事の日程を組んでいただ
いております。▼高額なご寄付をありが
とうございました。深く感謝申し上げ
ます。今後とも精進して参りたいと思
います。未熟者ですが、宜しくお願い
申し上げます。▼「新年におもう」で取
り上げた、「少水魚有樂」の語を遺した
妙心寺第二世・授翁宗弼じゆおうそうひつ禪師について、
先代の松原哲明和尚は、「授翁宗弼禪師
の研究」という修士論文を、昭和四十
八年に、早稲田大学大学院文学部東洋
哲学科に提出しました。主査は、平川
彰先生でした。▼母方の祖母の一周忌の
法要を北鎌倉の雲頂庵で行いました。
数多くの当事の書生さんや、小僧さん
をしていた方々が参列されていました。
きつと、多くの人々の面倒をみてきた
のでしよう。晩年、龍源寺で過ごした
十年間は、祖母にとって、娘である母
と一緒にいることのできた貴重な時間

であったと思います。十年前に、祖母
と家内が龍源寺に来たということにな
ります。▼先日、家内の亜矢さんが搭乗
する飛行機に、寺族で訪れたことがあ
る同じ臨済宗妙心寺派の北海道・釧路
鶴居のお寺の奥さまが搭乗されたとの
こと。私自身も今までに一度もないのに、
縁のすばらしさを感じております。家
内は、しばらくの間、仕事柄、中耳炎
に悩まされていました。体調管理に気
をつけているようです。娘の瑞樹は、
元気に学校に登校しております。学校
生活にも慣れてきているようで、何人
かのお友達が龍源寺に遊びに來ます。
宿題をみていると、私の小学校時代より
も、しっかりと勉強をさせるカリキュラム
のようです。「最近嬉しかったことは？」
と訊ねると、「担任の先生が結婚したこ
と」と言っています。もしかして、私より
もしっかりとした幼少時代を過ごして
いるようにも思います。▼母の膝が悪く
心配しています。痛いのは承知のこと
ですが、歩くことを勧めています。私
はというと、最近、書庫に

が多く、朝三時から四時に起床し、本
山の委員会を割り当てられた箇所箇所の漢
文の訳注作業をしております。▼門を
入って右側のしだれ桜が枯れてしまい、
安全のため伐採したことや、賽銭泥棒
を見つけて警察に通報するなど、さまざ
まことはありますが、元気にさせていた
だいております。▼令和六年一月六日
(土)午前十一時より、新年の祈祷会
(大般若会)を厳修致します。やはり、
実際に写経した『般若経』で大般若会
をすることは、写経をされた方々の思
いもあり、大変感慨深いものがあります。
写経された『般若経』の經典の奥書に
「世界平和」と書かれたものが多く、写
経された方々の志の高さをいつも感じ
ています。日々、お檀家さまの先祖供
養とともに世界平和を祈願しています。
▼今年、母の社中の方々にお願いし
て、座敷でお茶席を設けます。古いお
守り、お札をお持ちください。お寺の
方でお炊きあげをさせていただきます。
皆さま、ご家族で御來山ください。寺族
一同お待ち申し上げます。(信樹)